

歯周病と戦う

「歯周病壊滅大作戦」です。

歯周病は生存時間が長くなった現代日本人の共通の悩み、れっきとした『国民病』です。

むし歯は子供のころからの歯磨き指導、子供用歯ブラシ、子供用の歯磨きチューブ（バナナ味、イチゴ味）などのおかげで気を付けていれば何とかなる病気でした。

それに絵本などには長い槍を持った「バイキンむし歯マン」が子供の口の中に数匹いて「イヒヒ、それやっけろ！」と歯を長い槍でつついている絵をみて、「悪い奴がいる」「負けるものか！」と歯ブラシを片手に戦う正義の戦士登場。

戦う相手が想像しやすく、分かりやすいと戦いやすい。その意味でむし歯は戦いやすい相手だ。

武運つたなく「バイキンむし歯マン」に負けて「しくしくと泣いている」と子

供にとっては「バイキンむし歯マン」より怖い白衣を着た歯科医の先生のところへ連行される。待合室で待たされると治療室からウーンと何かを削っている音、子供の火のついたような泣き声、尋常でない様子が待合室に恐怖を運ぶ。逃げて帰ろうと思うのだが母親に強烈にホールドされて身動きが取れない、これを経験すると子供心に「もう二度と歯科医院にはいくものか」と強く深く決心する。



「リンゴをかじると歯茎から血がでませんか？」

このCMをみてリンゴをかじった人はいませんか？私は直ぐにかじってみました。が、歯茎からの出血はありませんでした。

健康な歯と歯茎の間（歯肉溝）はピタリとくっついて隙間はありません。

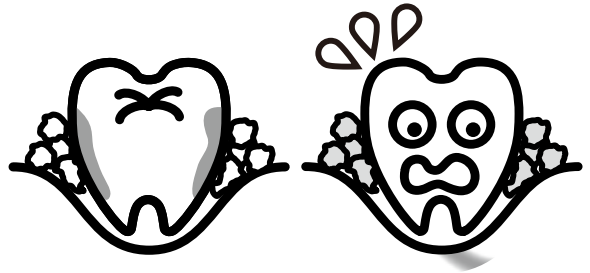
ところが疲れていたりお酒を飲みすぎたりすると歯茎がぷっくりと腫れて歯肉炎になります。しかし歯茎の腫れが退いて痛みがなくなっても歯と歯茎の間はピタリ隙間ない状態には戻りません。歯肉炎になっただけで「歯肉ポケット」をつくり歯周病菌にとって快適な環境をつくるからです。

「好気性菌」の「むし歯菌」と違って「**歯周病菌**」は『**嫌気性菌**』です。読んで字のごとく、**歯周病菌は空気に触れるのを嫌います。**

だから、歯周病菌は歯と歯茎の境目が炎症し「歯肉ポケット」ができると、炎症でできた隙間から侵入して歯と歯茎の間に入り込み「歯周組織に炎症を起します。

《**ポケットとは歯肉と歯牙との間隙のことで、深さ2mm以内の浅いものは『歯肉ポケット』歯周病のために深くなったものを『歯周ポケット』という。**》

歯肉をはじめ、歯周組織に慢性炎症があるので、ポケットから出血や排膿がある。歯根が露出し、その表面に歯苔や歯石が沈着する。これが炎症をさらに悪化させ、



ポケットをますます深くさせる。

◆歯周ポケットの深さは、歯周病の進行度を知る一つの目安となる、治療の成果を知る手がかりにもなるので、探針による測定が行われる。

歯周病菌は酸素に触れない歯と歯茎の隙間、その奥の奥へと進んでいき歯周ポケットをどんどん深くしていく。

人間の歯茎の根っこそのものが平均20mm。

軽度の歯周病で3～4mm、中度の歯周病だと4～6mm、重度の歯周病になると6mm以上の歯周ポケット。

歯周病菌を放置していると「歯周ポケット」はどんどん深くなっていきます。

歯周病が進行するとやがて歯を支えている歯槽骨が溶かされ、歯がグラグラと動くようになります。

歯科検診（口腔内検査）で歯周病だと診断されたら、早期治療が重要です。

◆歯周病治療の基本は、歯周ポケットの奥深くに溜まった歯垢や歯石を徹底的に除去すること。歯周病は、原因である歯垢を除去できれば必ず治る病気です。